

IV. 舌苔の望診（色・質）

舌苔については、色調（苔色）と形質（苔質）の両面を観察する必要がある。

A 苔色（たいしょく）

苔色は、主に白・黄・灰・黒の4種を区別するが、このほか緑苔と黴醬もまれにみられる。

1. 白苔（はくたい）

一般に表証・寒証をあらわすが、特殊な状況では熱証を示すこともある。

薄白苔は正常の苔であるが、外邪が表衛を侵犯したばかりのときには、舌苔にはまだ変化があらわれないために薄白を呈する。すなわち表

証を示し、傷寒の太陽病（表寒証）や温熱病の衛分証（表熱証）でみられる。写真⁶⁰

白苔がやや厚く湿潤しているのは、裏寒か寒湿である。写真⁶¹

陽虚が基本にある内傷の場合には舌質が淡白・胖嫩であり、寒邪の直中の場合には青紫舌のことが多い。

積粉苔（しやくふん粉白苔）は、舌面に白粉（おしろい）を厚く重ねたように白苔が満布し、乾燥して見えるが触れると湿潤している「類乾苔」である。湿邪が熱邪を鬱閉し毒熱内盛となった「あつ湿遏熱伏」が原因で発生し、うんえき瘟疫（重篤な発熱性の伝染病）や内癰（内臓や体腔内の化膿症）などでみられる。



⁶⁰ 薄白苔
正常・表証



⁶¹ 白苔・やや厚苔
寒湿・裏寒